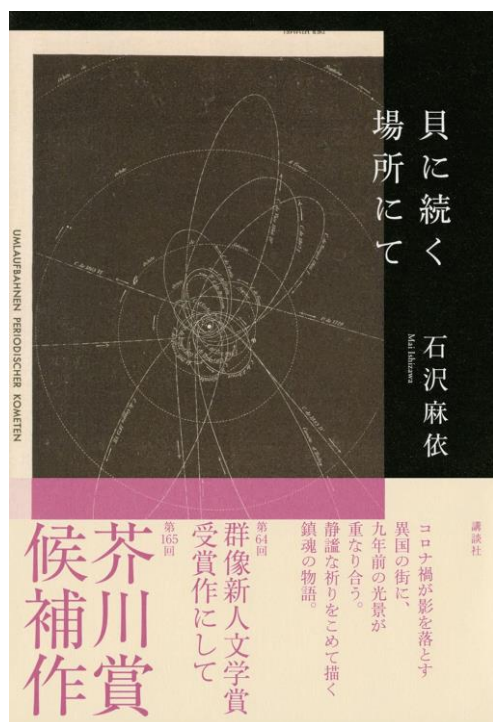


貝に続く場所にて

石沢 麻依 (著)



【第165回芥川賞受賞!第64回群像新人文学賞受賞のデビュー作】

コロナ禍が影を落とす異国の街に、9年前の光景が重なり合う。ドイツの学術都市に暮らす私の元に、震災で行方不明になったはずの友人が現れる。人と場所の記憶に向かい合い、静謐な祈りを込めて描く鎮魂の物語。

彼岸花が咲く島

李 琴峰 (著)

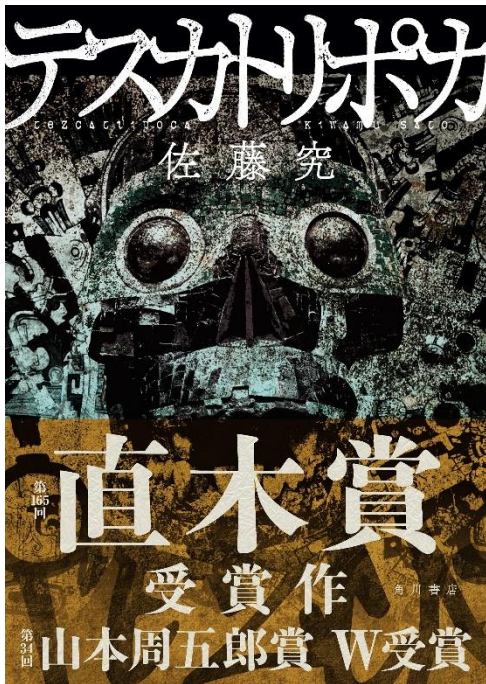


【第165回 芥川賞受賞作!】

記憶を失くした少女が流れ着いたのは、ノロが統治し、男女が違う言葉を学ぶ島だった——。不思議な世界、読む愉楽に満ちた中編小説。

テスカトリポカ

佐藤 究 (著)



【第165回直木賞受賞! 第34回山本周五郎賞受賞】

鬼才・佐藤究が放つ、クライムノベルの新究極、世界文学の新次元!

メキシコのカルテルに君臨した麻薬密売人のバルミロ・カサソラは、対立組織との抗争の果てにメキシコから逃走し、潜伏先のジャカルタで日本人の臓器ブローカーと出会った。二人は新たな臓器ビジネスを実現させるため日本へと向かう。川崎に生まれ育った天涯孤独の少年・土方コシモはバルミロと出会い、その才能を見出され、知らぬ間に彼らの犯罪に巻きこまれていく——。海を越えて交錯する運命の背後に、滅亡した王国〈アステカ〉の恐るべき神の影がちらつく。人間は暴力から逃れられるのか。心臓密売人の恐怖がやってくる。誰も見たことのない、圧倒的な悪夢と祝祭が、幕を開ける。

星落ちて、なお

澤田 瞳子 (著)



【第165回直木賞受賞作!】

鬼才・河鍋暁斎を父に持った娘・暁翠の数奇な人生とは——。

父の影に翻弄され、激動の時代を生き抜いた女絵師の一代記。

不世出の絵師、河鍋暁斎が死んだ。残された娘のとよ(暁翠)に対し、腹違いの兄・周三郎は事あるごとに難癖をつけてくる。早くから養子に出されたことを逆恨みしているのかもしれない。

暁斎の死によって、これまで河鍋家の中で辛うじて保たれていた均衡が崩れた。兄はもとより、弟の記六は根無し草のような生活にどっぷりつき頼りなく、妹のきくは病弱で長くは生きられそうもない。

河鍋一門の行末はとよの双肩にかかっているのだった——。

ねずみくんのチョコッキ

なかえ よしを(著), 上野 紀子(イラスト)

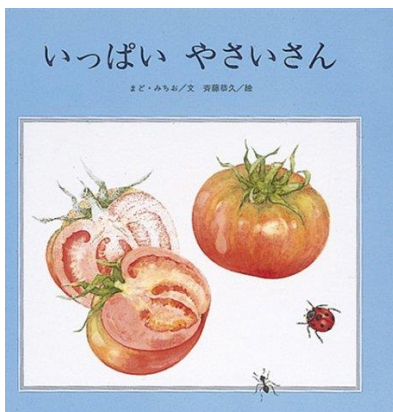


おかあさんがあんでくれた赤いチョコッキ。「ぴったり にあうでしょう」ねずみくんはうれしそうに言います。いいチョコッキです。すると、あひるくんがやってきて言うのです。「ちよっときせてよ」そうやってあひるくんがチョコッキを着ていると、今度はさるくんが言います。「ちよっと きせてよ」さらにあしかくん、ライオンくん・・・次々に動物がやってきてねずみくんの赤いチョコッキを着るのです。

あれれ、チョコッキはだいじょうぶなのかな？

1975年講談社出版文化賞絵本賞 「よい絵本」選定図書受賞

いっぱい やさいさん 齊藤 恭久(著), まど みちお (著)



トマト・ニンジン・ナスなどのみずみずしい野菜たちが、今の自分であることをうれしいと歌う。

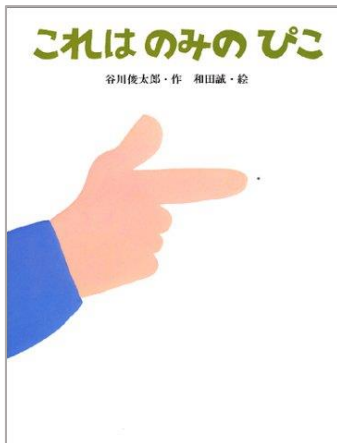
国際アンデルセン賞受賞の詩人まど・みちお先生の文が楽しい。

11ぴきのねこふくろのなか 馬場 のぼる (著)



ねこたちの行く先々に「花をとるな」「橋を渡るな」等など禁止の立て札が。でも、ねこたちは、花を取り、危険な橋を渡って、「入るな」と書いてある大きな袋に入り…。

これはのみのぴこ 谷川 俊太郎(著), 和田 誠(イラスト)



「これは のみの ぴこ」
「これは のみの ぴこの すんでいる ねこの ごえもん」
「これは のみの ぴこの すんでいる ねこの ごえもんの
しっぽ ふんずけた あきらくん」
ページをめくることに言葉がつみかさなっていき、最初は短かった文章が、どんどん長い文章に。言葉遊びで絵本をつくってくれる谷川俊太郎さんと、その世界観をユニークに表現してくれる和田誠さんのベストコンビによる1冊。繰り返しの部分を何回も聞いているうちに、子どもたちは思わず声に出してみたいかなるようです。
最後にはいったいどうなるのでしょうか…？

ちいさなうさこちゃん

うさこちゃんとゆうえんち ディック ブルーナ (著)



☆うさぎのふわふわさんとふわおくさんはとっても仲良しです。あるひ、ふわおくさんのところに天使がやってきて、かわいい赤ちゃんが生まれました。ふたりは赤ちゃんに「うさこちゃん」という名前をつけます。太った牛ににわとり、たくさんの動物がうさこちゃんを見にやってきて、ふたりにお祝いの言葉を贈ります。「うさこちゃん」シリーズの代表作。



☆うさこちゃんは遊園地でなにをしてあそんだでしょうか。ブランコや鉄棒、すべり台、まだまだありますよ。

すきすきはみがき なかや みわ (著)



人気絵本作家のなかやみわさんが母親の視点で描いた大人気「こぐまのくうびい えほんシリーズ」！歯みがきの大切さを分かりやすく教え、歯みがきが大好きになる絵本です！

●対象年齢1歳から●「すき すき はみがき」では、子育て中のママから質問の多い「はみがき」がテーマ☆こわ〜いバイキンたちを見て、子どもたちも歯が痛くならないうちに、きちんとはみがきをしたくなりますよ！

コミック



進撃の巨人 諫山 創 33



ちはやふる 末次 由紀 46